

町の記憶

徳永製菓(株) 豆徳本店
福山市胡町四―二二
京都から資材を運んで建てた
風情漂う戦後築の店舗兼住居

Vol.91



【創】業は1869(明治2)年。本社向かいの直営店「豆徳本店」は戦後、京都から資材を運んで建築されたとか。長く事務所として使われた後、二〇年前から店舗になった。

幅一五メートルほどの店舗には、欄間やガラスの引き戸など随所に職人の丁寧な仕事ぶりが残る。店舗奥の住居スペースには中庭があり、明るい陽光が差し込む。洋風の応接間の棚には彫刻が施され、戦後の混乱期に建てられたとは思えぬ風情ある空間が広がる。観世流の能を代々趣味としてきた創業家。今も二階には大きめの鏡と、板張りの稽古場が残る。

建物は幅より奥行きの方が長いそう。同社の徳永ひろみ会長は「工場も兼ねており、今も豆菓子の製造に活用しています」と話す。製氷や製パンなども手掛けつつ、時代の変化を乗り越えてきた。戦後の一時期には菓子販売の「徳永チェーン」を展開し、「最盛期には広島・岡山県に五〇店舗ほどあったと聞いています」。

菓子の卸にかじを切った時期もあったが、次第に価格競争が厳しくなった。二代目社長だった祖母の「困った時は豆に戻れ」という言葉に従い、豆製品の製造に注力。看板の「竹炭豆」などを誕生させた。

このほど、店舗南側の隣接土地を取得した。鉄骨造り三階建ての事務所を新築する予定で、「年末の完成を目指しています」。伝統を重んじつつ、革新を続ける。

時を超える家を建てよう。

株式会社のじま家大工場
<http://nojimaya.co.jp>
084-962-2297